

Case11 (2021.5.10)

40代 女性

主訴:逆子

診断名:39週骨盤位

関わった医療機関(施設):大学病院(産科)、鍼灸院

妊娠39週の患者が逆子治療を希望し鍼灸へ来院した。施術者は患者に対し事前に鍼灸と逆子体操の許可を医師から得るように伝え、問題なしとの回答を得てからの施術となった。3回の施術を経て骨盤位も改善し、希望通り自然分娩での出産となった症例。

寸評:出産予定日間近の骨盤位の症例で、術者も細心の注意を払い施術にあたった。担当医師に鍼灸と逆子体操についての許可を得てから施術を行ったとの事であった。産科領域での鍼灸受療者は多く、特に逆子施術に関してはRCTを含む論文もある。鍼灸院では患者の主観的な胎動から判断する事になるため、クリニックや助産院との連携があれば患者は安心して施術を受けることができるのではないか、といった意見があった。

Q,当症例の医療機関とのやり取りは、顔が見える連携・交流からのものか？

A.患者さんを通じてのやり取りであった。

担当医師はエビデンスないが、伝統的に良いと考えられるものなので自由にして良い、との事であった。

検討会参加の医師からの意見として、鍼灸に否定的な医療者もいるが、根拠となる研究など提示できると良いのではという意見もあった。

また、骨盤位に対し柴苓湯と至陰の組み合わせで逆子治療にあたったという医師からの話も提示された。

鍼灸師の経験として、臍帯の長さや動きの良し悪しの話や前置胎盤などの事からも回数を区切り、結果に結びつかない場合、鍼灸を過剰に繰り返さない事への言及があった。

---

<sup>6</sup> 日本医事新報社 骨盤位(逆子)への鍼灸治療の根拠・方法と効果は？

形井秀一 (洞峰パーク鍼灸院院長/筑波技術大学名誉教授)

<https://www.jmedj.co.jp/journal/paper/detail.php?id=13295>

助産業務ガイドライン 2014 日本助産師会

[表 1.pdf \(midwife.or.jp\)](#)

骨盤位矯正における姿勢管理・鍼灸・外回転術の有効性 長崎大学医学部

[https://nagasaki-u.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_action\\_common\\_download&item\\_id=8361&item\\_no=1&attribute\\_id=18&file\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://nagasaki-u.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=8361&item_no=1&attribute_id=18&file_no=1&page_id=13&block_id=21)